

日本心理学会第87回大会公募シンポジウム
(宗教心理学研究会第20回研究発表会)

神学・宗学は
実証的宗教心理学と連携・協働することができるのか
－ 実証的宗教心理学の挑戦 (2) －

指定討論

西脇 良
(南山大学)

特集①「『心理学ワールド』を読む」

「キリスト教学の領域から」

(佐野正子先生)

- ・91号「思いやりの心理学」に注目
- ・神学における人間理解に新たな認識をもたらすことへの期待

心理学 ワールド

編集・発行 日本心理学会
PSYCHOLOGY
WORLD Apr. 2023

101

特別企画

『心理学ワールド』の楽しみ方



今回のテーマ

神学・宗学

連携
協働

実証的宗教心理学

臨床実践

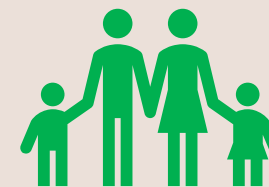
解釈・指針

問い・ニーズ

意識・行動データ

観察・理解

宗教教団・宗派
(信者・門徒)



ミッション校の精神的基軸

「キリスト教ヒューマニズム」尺度作成の試み

森本真由美 先生

(清泉女子大学)

- 神学と心理学の関係

研究手法の違い → 人間理解のために他の領域との協働が必要

- 教皇庁立認可神学部での専門科目（神学領域）・実践的課題

- 上智大学教育イノベーションプロジェクト『街角のヒューマニズム』

「キリスト教ヒューマニズム」概念（を媒介とした連携・協働）

「キリスト教ヒューマニズム」の「7命題」

「7命題」に基づく授業実践から得た言語データ

「キリスト教ヒューマニズム」尺度の開発



神学・宗学と実証的宗教心理学との協働

「キリスト教ヒューマニズム」（神学が根拠）の定着度を測定するための心理尺度の開発



質問

「7命題」「授業実践」と「キリスト教ヒューマニズム尺度」開発との関係について

宗教と心理学の接点

—キリスト教・プロテスタントの視点から—

河村従彦 先生

(カワムラカウンセリングルーム)

1. プロテスタントの宗教性

キリスト教の中での立ち位置

2. プロテスタント神学と心理学との接点

「こころ」の捉え方の違いと相互批判

3. 心理学が貢献できる役割

人間のもつニーズ(=救済)の提示

人間の変容可能性の提示

4. 神イメージ理論

「**神イメージ尺度日本版(J-GIS)**」の作成

宗教体験を心理学用語で表現する試み

→双方からアプローチ可能

5. 現状と期待される今後

神イメージ理論の日本での展開

双方の「異動・棲み分け」の不明瞭さ 対話に必要性



神学・宗学と実証的宗教心理学との協働

「神イメージ尺度日本版」の開発は、実証的宗教心理学からの神学・宗学への対話の呼びかけでもある



質問

「神イメージ尺度日本版」について「神学・宗学」側からの反応は？（個人的対話／学会発表等で）

伝統仏教教団における心理学研究の可能性

武田正文 先生

(浄土真宗本願寺派高善寺)

武田先生の活動

臨床心理士・公認心理師 「仏心チャンネル」等

浄土真宗本願寺派

「新しい領解文」騒動 教義

宗学と実証的宗教心理学

問いの違い(本質 vs. 現前の事柄)

可能性と課題

宗制基本調査結果に基づいた組織の見直し

用語や方法論の違い

宗学の裏付けとしての宗教心理学



神学・宗学と実証的宗教心理学との協働

教学解釈や組織ガバナンス体制でゆれる現状。客観的なデータを得る手法に，実証的宗教心理学が貢献できる可能性。



質問

「宗制基本調査」等の教派内調査の実施にあたって宗教心理学に寄せる期待，ニーズについて

伝統宗教を踏まえたスピリチュアルケアの実践の可能性
—浄土真宗の視点から—

河村 諒 先生
(愛知県立大学)

ビハーラ活動について

ビハーラの宗学的基礎付け

全人的ケア(身体的・精神的・社会的・靈的苦痛のケア)

靈的苦痛の存在

(生きる意味・苦しみの意味・死の恐怖・神の存在・死

生観の悩み)

スピリチュアルケア

超越者／内面の超越的自己との出会い

「宗教をふまえたスピリチュアルケア」

高齢者施設でのスピリチュアルケア調査（有用性および課題）

実践上の連携を高めるために

宗学の側

…全人的ケア・グリーフケア・スピリチュアルケアへの理解

心理学の側

…宗教的なニーズを把握すると共にその有用性を検証



神学・宗学と実証的宗教心理学との協働

ビハーラの活動がすでに連携・協働の一つの姿であることを示している。



質問

ビハーラを実践する上での課題克服に向けて、実証的宗教心理学が果たすことができる役割について

仏教と心理学の接点

— 仏教における「行」と行動科学 —

中尾将大 先生

(大阪大谷大学)

1. 仏教の基本的な考え方

「苦しみ」の解決。「四苦八苦」「安心」

自己変容の教え。「自ら行ずることによって智慧に至る」

2. 行動分析学の基礎

心理学は(人間が幸せに生きるための)人間の理解を
目指す。

行動分析学(行動の法則を発見する基礎科学)

応用行動分析学における「ABC分析」

3. 仏教と行動科学の接点

仏教…「行」(瞑想や念仏, 「写経」)の実践による苦の
解決

行動科学…行動分析学の視点から「行」を捉える

4. 発表者の取り組み(行[易行]としての写経)

写経の理論行動分析

「ABC分析(三項随伴性分析)」(先行事象→行動→後続事象)モデルの
適用

仏教(苦の解決)の「行」モデルで「ABC分析」モデルを
解釈

5. まとめ

「ABC」モデル／行動随伴性ダイアグラムは科学的
思考に慣れ親しんだ現代人に合致
仏教(行)の可能性を応用行動分析学の視点から
追究・提案

「簡易版・写経」の取り組み(「繰り返し効果」)



神学・宗学と実証的宗教心理学との協働

応用行動分析学の理論モデルと，仏教教義（ex. 四諦八正道）との親和性



質問

他の宗教（たとえばキリスト教）についても，同様の方法論（行動分析学の枠組みによる実践）は考えられ得るか

今回のテーマ

神学・宗学

連携
協働

実証的宗教心理学

臨床実践

解釈・指針

問い・ニーズ

意識・行動データ

観察・理解

宗教教団・宗派
(信者・門徒)

